

市主催講座〈なごや学〉尾張徳川家の殿様④

～尾張徳川家の相続と歴代の事績～

なごや学「尾張徳川家の殿様」5回シリーズの講座の第4回を9月8日（木）に行いました。徳川美術館学芸員の並木昌史氏に14代慶勝から16代義宜、幕末から維新にかけてのお話をいただきました。



14代の殿様、慶勝は高須松平家出身でした。日米修好通商条約調印に抗議し、大老井伊直弼に謹慎を命ぜられ、茂徳が15代藩主になります。桜田門外の変ののち慶勝が謹慎をとかれると、茂徳は隠居を命ぜられます。義宜が16代藩主になり、慶勝は義宜の後見となります。その後、慶勝は孝明天皇に14代将軍家茂の政事後見を命じられます。

茂徳が一橋家を継ぎ、藩内の茂徳派と慶勝派の対立は解消します。幕府の命で、慶勝は長州征伐の征伐軍総督を務めます。

戊辰戦争が起こると、慶勝は藩内の佐幕派を肅正し東海道・中山道の沿道諸藩・寺社に「勤王証書」を提出させます。戊辰戦争後、維新时期の功績により慶勝は、従一位の位を授けられました。



激動の時代を生きた慶勝のたった写真、当時の情報を集めた諸品新聞書など、豊富な資料をもとにお話いただきました。

4回にわたるお話で、尾張藩16代について学ぶことができました。講師の先生方、受講者の皆様、ありがとうございました。